

【鶴見区】平成 30 年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

| | |
|------|--|
| 開催日時 | 平成 30 年 6 月 1 日（金）午前 10 時 35 分 ～ 午後 0 時 00 分 |
| 場 所 | 鶴見区役所 5 階 特別会議室 |
| 出席者 | <p>【座 長】尾崎太議員</p> <p>【議 員：5 名】山田一海議員、井上さくら議員、渡邊忠則議員、古谷靖彦議員、有村俊彦議員</p> <p>【鶴見区：25 名】森健二区長、高家達朗副区長、花内洋福祉保健センター長、松本智福祉保健センター担当部長、山川博子福祉保健センター医務担当部長、山本尚樹鶴見土木事務所長、山田裕之鶴見消防署長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p> |
| 議 題 | <ol style="list-style-type: none"> 1 平成 30 年度鶴見区の予算について 2 平成 30 年度個性ある区づくり推進費予算について 3 平成 30 年度個性ある区づくり推進費 自主企画事業費等執行計画について |
| 発言の旨 | <p>有村議員：国道駅の放置自転車は、今どのような対策をしているのか。徐々に台数が増えているが、今後の対策について伺いたい。</p> <p>岩田地域振興課長：国道駅は、現時点で放置禁止区域に指定されていないので、場所に応じて、所管である J R、土木事務所及び国土交通省で対応することになる。J R では、高架下を使った駐輪場の整備も検討していると聞いているので、そのようなことが可能であれば併せて指定禁止区域にすることも検討していきたい。</p> <p>有村議員：最近、J R も国道駅に着目し始め、観光資源として期待する雰囲気もあると聞いている。放置自転車の対策が必要となる場合もあるので引き続きお願いしたい。</p> <p>有村議員：鶴見川右岸の遊歩道は末吉橋で分断されるが、横断歩道が離れているため、多くの人があるまま道路を渡っており危険である。末吉橋</p> |

の架け替え工事に合わせて高架下を通行できるようにしてほしい。遊歩道の整備は、今後実施が予定されているランニングフェスタでも鶴見区内のルートを設定するために重要なポイントとなるので、区から道路局へ意見を伝えてほしい。

森区長：区としても検討して道路局に伝えていきたい。

有村議員：国際交流ラウンジにおける Wi-Fi 設置について、外国人観光客・ビジネス客などのビジターに対する周知・広報はどのような工夫をしているのか。

岩田地域振興課長：29年12月に Wi-Fi を設置し、まだ6か月であるが、より効果的な周知・広報ができるよう国際交流ラウンジと検討していく。

有村議員：是非、ビジターが利用するホテル等にも広報するなど工夫してほしい。

有村議員：三ツ池公園フェスティバルや鶴見臨海フェスティバルに車で来場して駐車場に入れないという状況が続いているが、利用者の交通手段はどう考えているのか。また、交通手段の広報は行っているのか。

岩田地域振興課長：区民フェスティバルの来場者には、公共交通機関をご利用していただくこととしている。チラシにはスペースに限りがあるため掲載していないが、掲載内容について精査していきたい。

有村議員：素晴らしいフェスティバルであり、区内全域の方に楽しんでいただくためにも、公共交通機関の利用について分かりやすく広報してほしい。また、今後臨時運行バスなどの利用も前向きに検討してほしい。

岩田地域振興課長：御指摘を踏まえ、実行委員会でも検討していきたい。

古谷議員：区内で13,000人が認知症サポーターの養成講座を受講されており、認知症サポーターフォローアップ講演会を実施することは良いことである。いくつかの自治体で徘徊高齢者探索訓練が行われており、区内でも一部の場所で行われていると聞いているがどのような実態か。

坪山高齢・障害支援課長：区内の徘徊高齢者探索訓練は、昨年10月に東寺尾ケアプラザで生麦第二地区の方を対象に声掛けの模擬訓練を行なったほか、11月には「川のまちエリア会議」で認知症 SOS ネットワー

クの模擬訓練を行っている。今年度に入り5月にも東寺尾ケアプラザで携帯端末のアプリを使った模擬訓練が行われており、徘徊高齢者探索訓練は、区内でも徐々に広がっている。

古谷議員：是非、広がっている徘徊高齢者探索訓練に認知症サポーターの方をしっかりと巻き込むような仕掛けをしてほしい。

古谷議員：こども青少年局の常任委員会で、虐待の件数が増えていることから、区役所の対応は高止まりをしている状況だと聞いている。現在、鶴見区ではどのような体制で何件くらいの虐待の対応を行っているのか。

中澤こども家庭支援課長：29年度の虐待件数は市全体で6,796件、そのうち鶴見区の対応件数は1,971件で全体の15パーセントとなっている。それに対して今年度係長を1名増員しているが、実際には係長だけでなく、保健師10名、ケースワーカー6名がチームになり、複数で訪問して対応している。

古谷議員：虐待の件数自体が伸びてきて、3年前に比べると件数は倍増しているので、職員の増員など体制を充実させる必要があるのではないのか。

森区長：日々報告は受けており、現場では対応に大変苦慮していると聞いている。局にも引き続き働きかけて、対応できるスタッフを充実させていきたい。

古谷議員：国際交流ラウンジは、外国人につながる方が多い鶴見区の特徴からして重要であるが、運営体制が弱いと感じる。各種教室を支えている講師はボランティアで交通費も支給されていないが、運営の考え方を聞かせてほしい。

岩田地域振興課長：運営については、包括的にYOKE（横浜市国際交流協会）に委託しているので、YOKEと協議していきたい。

古谷議員：実施している各種教室の日本語教室には託児が付いているがそのほかの事業には託児機能がない。現場では、こどもを連れて相談に来た母親が相談どころではない状況もあると聞いている。人口動態で若い世代が増えているというのは外国籍の方でも同じ状況なので、委託先のYOKEと協議して、是非改善してほしい。

岩田地域振興課長：YOKE と協議していきたい。

古谷議員：鶴見区の特徴がある部分なので、区として国際交流ラウンジをしっかりと支援してほしい。

井上議員：鶴見駅西口の喫煙場所はタクシー乗場に隣接し、上にデッキがあることで煙が滞留してしまっており、喫煙所に関して常に苦情がでている。場所がないということもあり大変難しい課題だが、移設に向けて検討を始めてほしい。

森区長：鶴見駅西口の喫煙所に関しては非常に多くの苦情があり、課題があることは承知している。引き続き、どういった対策ができるのか大きな課題としてしっかりと取り組んでいきたい。

井上議員：不法投棄は後を絶たず、防止が難しいと感じている。近隣の方が行政に連絡できるようにプレートなどで連絡先を周知し、こまめに対応してほしい。

今井資源化推進担当課長：ごみの集積場所に不法投棄という形で一緒に粗大ごみを置いていくケースが多くあるが、この場合は事務所に連絡していただいて撤去している。不法投棄があるとその場所の不法投棄が増加する場合があるので集積場所の近くの不法投棄は迅速に対応している。

井上議員：連絡先が分からないという声も多いので、是非周知してほしい。

井上議員：昨年度、鶴見区で保育士の退所により子どもたちが通園できないという報道があり、現在も問題は続いている。現場に近い区で早い段階で園の状態や経営の課題などをキャッチして局と情報共有し、人的フォローをするなどの体制強化ができないか。

岩田学校連携・こども担当課長：新たに局でも巡回訪問を行う。区の職員も随行したり、園長会などで話をする機会が多くあるので、アンテナを高くしていろいろな情報を受けていきたい。

井上議員：なかなか全市一律では捉えられない課題があるが、待機児童をなくす前に、まずは既存園と既存園に通っている子どもたちを守ることができていないといけない。このような経験をした鶴見区だからこそ、得られた教訓を局にもあげてほしい。

森区長：局と課題を共有しながらどういったことができるか真剣に考えて

いきたい。

井上議員：外国籍につながる方のマナーの悪さなどの苦情があるがどのように捉えて対策しようと考えているのか。

森区長：外国籍の方あるいは外国に繋がる方々には、やさしい日本語も含めて様々な形でサポートして必要な情報を伝える。一方、区民の皆様に対しては当たり前の人権意識の高揚をお願いしたい。外国籍の方が多いことが鶴見区のプラスとなるような思いを持ってしっかり取り組んでいきたい。

井上議員：国際交流ラウンジは重要だが、ラウンジに出来ない人に対する支援も重要。外国籍の方のコミュニティに出向いて対話し、生活に必要なマナーを周知するなど対策を検討してほしい。

森区長：国際交流ラウンジを運営している YOKE には多くの情報があるので、効果的な情報を共有し、現状分析しながら真摯に取り組んできたい。

井上議員：区の担当部署は、どちらになるのか。

飯島区政推進課長：区政推進課で多文化共生事業を行っている。提案に応じて必要があれば該当課に振り分ける。

渡邊議員：ひとり暮らしの高齢者の方は区内にどれくらいいるのか。

小黒福祉保健課長：75 歳以上の高齢者の見守り事業は民生委員にお願いしており、名簿上は約 10,000 人だが、実際には約 3,300 人のひとり暮らしの高齢者を見守りしている。

渡邊議員：産後母子ケア事業は、「虐待のリスクが高い母子を対象」とあるが対象はそれだけではないのではないかと。

中澤こども家庭支援課長：産後母子ケア事業の目的は児童虐待の未然防止であることから、産後、家族からの支援が受けられない家庭など「虐待リスクが高い母子」を対象としている。

渡邊議員：大黒埠頭の C I Q 設置により大型客船が年 20 隻くらい着くと言われている。鶴見区の魅力を発信するための考えはあるか。

飯島区政推進課長：大黒埠頭に大型客船が着くことは、鶴見の魅力発信の良い機会である。総持寺やキリンビール工場など区内観光のポイントが

いくつかあるので、鶴見区内の観光ルート設置について局と検討している。また、船が着くことに伴い、スカイウォークと大黒埠頭の客船を合わせた区民向けの見学会などについても局と検討している。

渡邊議員：是非、積極的な提案をしていただきたい。

渡邊議員：都市計画マスタープラン鶴見区プラン改定は、京浜臨海部の再編成整備マスタープランを受けて様々な団体の意見を聞きながら着実に進めていただいているが、横浜の一部としての鶴見区という目線も必要である。

渡邊議員：タブレット端末による多言語対応は、翻訳センターのような所と通信して対応するのか。それともタブレットの中にある機能を利用して対応しているのか。

飯島区政推進課長：来庁者、区役所及びタブレットを通じた画面の対応者の3者がタブレット機能ではなく、タブレットを介してリアルタイムでやり取りをしている。

渡邊議員：英語や中国語が基本となるタブレット端末の多言語対応は、あらゆる言語に対応することは難しいのではないか。

飯島区政推進課長：委託先に英語や中国語以外の対応ができるスタッフがいる場合は、ほかの言語でも対応できるが、あらゆる言語を網羅するということは難しいので、可能な範囲でできることを実施していく。区役所として、タブレットの端末は、局からの2台に加えて区の予算から3台の合計5台で運用し、局の範囲よりも拡大した台数的で対応しているが対応言語の問題は残っている。

渡邊議員：多文化共生の言語は難しい部分があるが、鶴見区としてのスタイルで進めていってほしい。

渡邊議員：森区長の区長就任にあたっての抱負を聞かせてほしい。

森区長：10年ぶりに鶴見区に戻り、まず、大きく街づくりが進んでいると感じている。横浜環状北線の供用が開始され、また、花月園競輪場が無くなり、跡地開発が進んでいることなど、目に見えるものは変わったが、鶴見の人のつながりの強さが変わっていないことは鶴見の一番強みである。一方で、平均寿命が短い事や投票率の低さ、外国籍の方への支援

など、行政のサポートが必要な課題も多い。将来は18区のなかで最後まで人口が増え続けていき、さらに様々な新しい課題が出てくる。行政だけではできないので是非、多くの方の意見を聞きながら、先生方のお力も借り、各団体の力も借りて協働しながらしっかり区政を進めていきたい。

山田議員：鶴見区高齢者はつつ生活応援事業は、2025年問題を控え、高齢者が増加していくので、是非進めてほしい。高齢者の地域見守り事業はどのような形で実施しているのか。

坪山高齢・障害支援課長：地域見守り活動は、各地域でケアプラザが中心となってグループが作られ、地域の方々が自発的に行っている。積極的に見守り活動に参加していただいていることは、鶴見区の特色なので、区がサポートしていきたい。

小黒福祉保健課長：健康福祉局の区配事業『ひとり暮らしの高齢者「地域で見守り」推進事業』では、75歳以上の単身世帯を民生委員が必要に応じて訪問している。民生委員には地域で志を持って見守り活動をしていただいているので引き続き応援していきたい。

山田議員：保育所において保育士不足が問題になっているが、どう考えているのか。

花内センター長：保育士の不足は、鶴見区だけではなく全国的な問題になっているので、その辺りも踏まえて局と連携して保育士確保施策等について取り組んでいきたい。

山田議員：是非、しっかり保育士の確保に取り組んでほしい。

山田議員：メール・フェイスブックによる生活情報発信は、多言語による情報提供をいっそう進めていただければ、外国人も鶴見区のことをより理解できると思う。

飯島区政推進課長：現在メールに対応しているものは英語、スペイン語、ポルトガル語、やさしい日本語だが30年度からは中国語等も増やして5言語で行っている。メールソフトの性能があがったということで中国語の対応ができるようになったが、今後もニーズ等を見極め、必要に応じて増やしていきたい。

山田議員：商店街が減少してきているが、商店街を活性化するイベントにはどのようなものがあるのか。

岩田地域振興課長：御指摘のとおり、鶴見区内の区商連に加入している商店街は年々減っていると聞いている。そうしたなかで経済局の事業で商店街が中心となって実施するイベントに対して助成する「商店街活性化イベント助成事業」がある。一方、「商店街魅力発信事業」は、鶴見区の区づくりの事業であり、イベントの補助金としてはより少額だが、地元の学校や自治会館など他の団体と連携させることで商店街と地域の活性化を図っている。29年度は、つくの商店街協同組合、小野町通り共栄会、尻手銀座親交会に活用していただき30年度についても現在募集をしているところである。

山田議員：区民まつりの予算はどれくらいか。

岩田地域振興課長：三ツ池公園フェスティバル100万円、サマーフェスティバル300万円、臨海フェスティバル120万円の合計520万円。

山田議員：多くの人に来場してもらうということは、大きな課題であるので全面的に支援してほしい。

尾崎議員：鶴見駅西口公衆トイレの整備状況はどのようになっているのか。

飯島区政推進課長：鶴見駅西口公衆トイレは、非常に老朽化が進み、区民の方からもご意見をいただいております、資源循環局も課題として認識している。現在、オリンピック・パラリンピックの開催に向けた関連施設のトイレ改修が優先されていると聞いているが、資源循環局と相談してなんとか対応していきたい。

尾崎議員：花月園公園は、地域公園ではあるが防災公園の名が付くという話もあり、地域の方だけではなく、多くの方の利用が想定される。大きな公園を土木事務所が管理するとなると予算措置の問題もあり、花月園公園の管理によって他の公園が全然整備されなくなってしまうたら本末転倒である。多くの方に使っていただくということであれば、駐車場や駐輪場の問題などもあるので、区として基本計画や詳細設計について

| | |
|------------|--|
| | <p>て、今の時点で環境創造局に働きかけることはできるのか。</p> <p>飯島区政推進課長：環境創造局の公園の基準があるなか、この公園は地区公園ということで整備が進んでいるので今の段階で変えるというのは難しい。御指摘のとおり地区公園にしては大きい公園で、管理体制が大事であることは環境創造局も認識している。せっかく大きな公園ができるので、多くの方に使っていただけるようにどのような管理体制が良いのか局と相談していきたい。</p> <p>尾崎議員：管理の仕方なども含めて、垂れ流しで行政コストを使うのではなく、民間との協力でいろいろな店舗が出店するなど、公園としてのビジネスが成り立つような、それで地域にも喜ばれるような管理体制が良いと思う。管理体制や方向性について懸念している。</p> |
| <p>備 考</p> | |